

プロトコール名 胃癌 nab-PTX+サイラムザ療法

適応 治癒切除不能な進行・再発の胃癌

条件 **パクリタキセルが使用できない症例に限る**

投与期間 4週を1コースとして投与

投与計画

薬剤名	基準量
アブラキサン	100 mg/m ²
サイラムザ	8 mg/kg

薬剤名	投与量	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
アブラキサン	100mg/m ²		↓							↓							↓													
サイラムザ	8mg/kg		↓														↓													

(day1、15)

- ①生食100ml(ルートフラッシュ用)
- ②グラニセトロン1B+オルガドロン4A (30min)
- ③生食250ml+サイラムザ 8mg/kg (* 初回60min、2回目以降に30minに短縮可) **投与前後、生食にてルートフラッシュ**
- ④生食100ml (1時間経過観察)
- ⑤生食50ml+アブラキサン 100mg/m² (30min)
- ⑥生食50ml (5min)

生食100ml	グラニセトロン オルガドロン	サイラムザ 生食250ml	生食100ml	アブラキサン 生食50ml	生食50ml
	30分	*	1時間	30分	5分

(day8)

- ①生食100ml(ルートフラッシュ用)
- ②グラニセトロン1B+オルガドロン4A (30min)
- ③生食50ml+アブラキサン 100mg/m² (30min) **投与前、生食にてルートフラッシュ**
- ④生食50ml (5min)

生食100ml	グラニセトロン オルガドロン	アブラキサン 生食50ml	生食50ml
	30分	30分	5分

サイラムザは0.22ミクロン以下のインラインフィルターを通して投与すること

サイラムザは生食で希釈すること

アブラキサン投与時はインラインフィルターを通さないこと

アブラキサンは特定生物由来製品であるため使用記録を20年間保管すること

●休薬・減量基準

・次表の基準を参考に、減量・休薬をおこなうこと

好中球数	1000/mm ³ 以上で実施可能
血小板数	7.5万/mm ³ 以上で実施可能
AST・ALT	2.5×ULN以下で実施可能 (肝転移症例では5×ULNまで可)

蛋白尿	1日尿蛋白量2g以上	初回発現時	1日尿蛋白量2g未満に低下するまで休薬 再開する場合には6mg/kgに減量
		2回目以降の発現時	1日尿蛋白量2g未満に低下するまで休薬 再開する場合には5mg/kgに減量
	1日尿蛋白量3g以上	中止	
	ネフローゼ症候群	中止	

※尿蛋白量はUPCR比(尿中蛋白量/尿中クレアチニン濃度)で代用可

高血圧	症候性のGrade2	降圧薬による治療をおこない血圧がコントロールできるようになるまで休薬
	Grade3以上	降圧薬による治療をおこなってもコントロールできない場合には、中止

初版 2020. 6. 15 作成

2版 2021. 3. 25 更新